

公園における市民協働体制の検討状況

(平成28年度第2回高田松原津波復興祈念公園震災津波伝承施設検討委員会 資料)

平成29年2月21日

1. 協働体制検討ワーキンググループの概要

○主な検討事項

- 次期体制(準備会)移行に向けた体制の検討
- 公園供用時の管理運営・市民協働体制の検討
- 市民協働ワークショップの企画立案 ⇒市民協働ワークショップの“幹事会”としての役割

○委員名簿

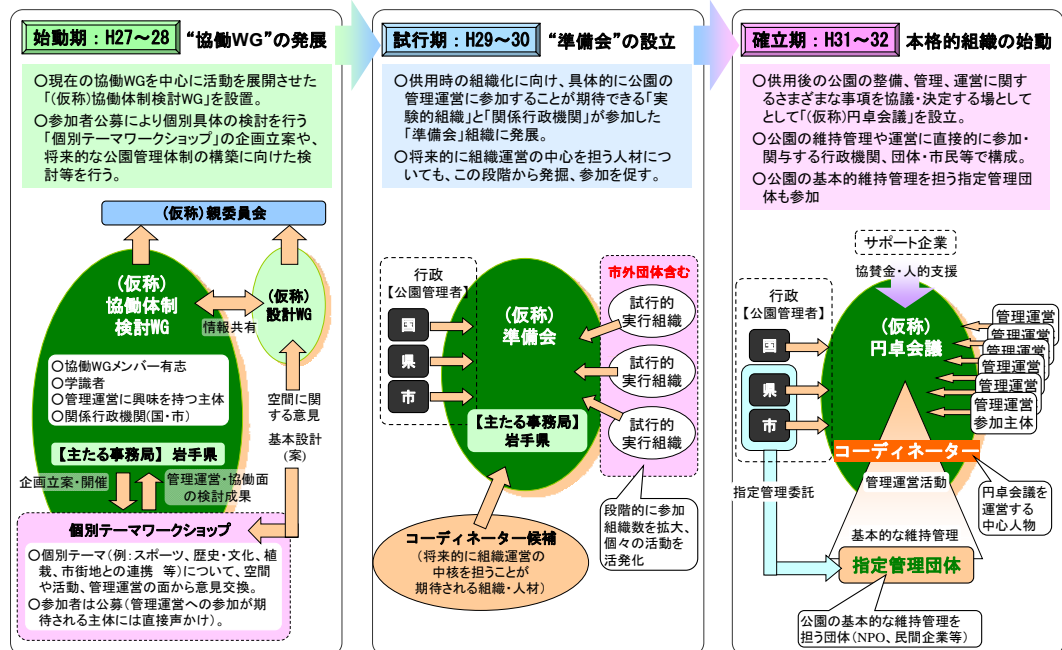
(敬称略)

区分	氏名	所属・役職等
幹事	広田 純一	岩手大学農学部教授
副幹事	五味 壮平	岩手大学人文社会科学部教授
委員	阿部 裕美	元陸前高田災害FMパーソナリティ
委員	石川 浩行	元一般社団法人 陸前高田青年会議所
委員	磐井 正篤	株式会社 いわ井
委員	岡本 翔馬	NPO法人 桜ライン311
委員	菅野 修	陸前高田市体育協会
委員	熊谷 政之	漁業
委員	種坂奈保子	陸前高田まちづくり協働センター
委員	村上 幸司	陸前高田市企画部商工観光課
委員	吉田 和子	りくカフェ運営メンバー
委員	吉田 裕	今泉まちづくり協議会
委員	渡辺 雅史	横田地区コミュニティ推進協議会 ・高田松原を守る会

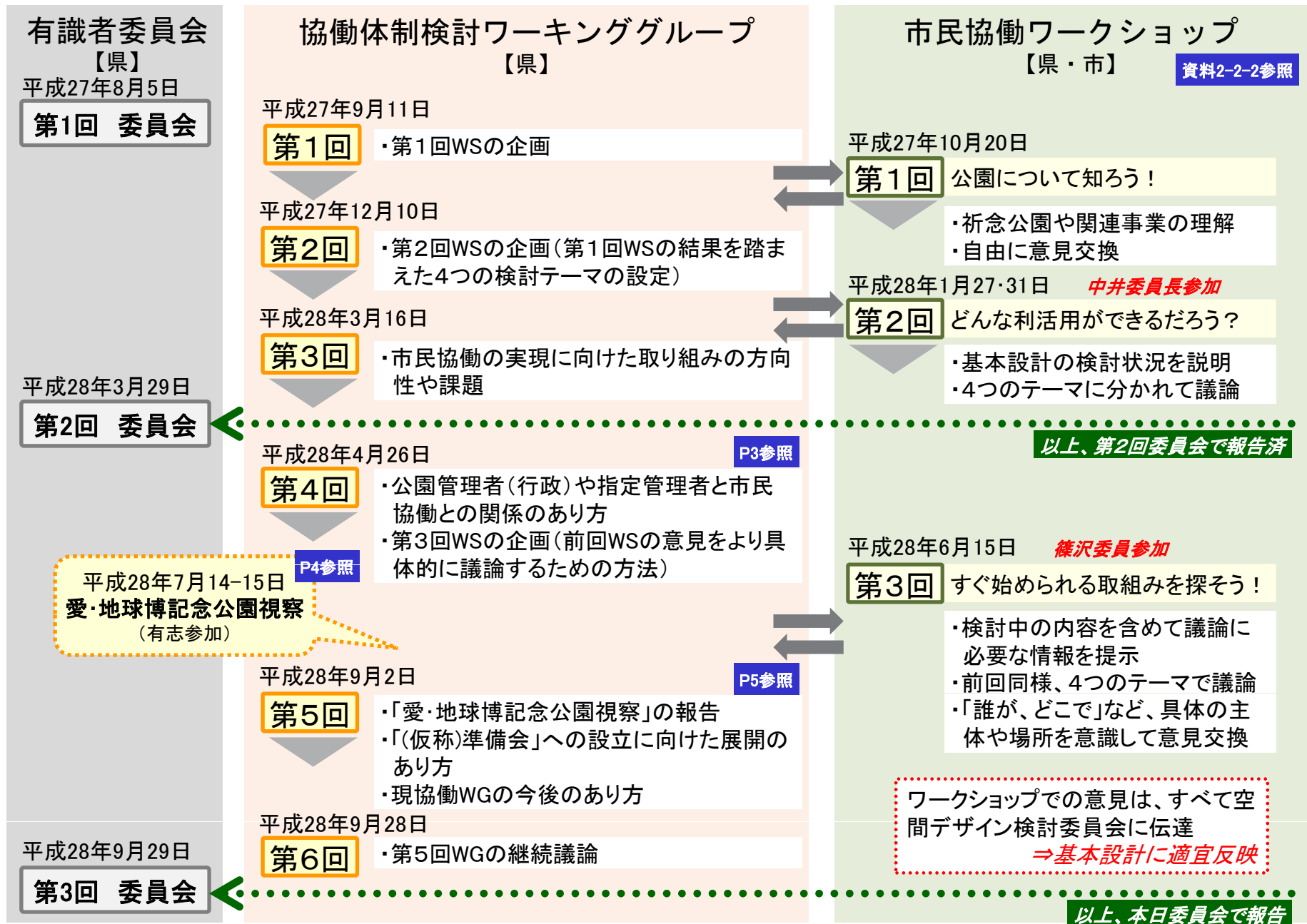
○事務局

岩手県県土整備部都市計画課
大船渡土木センター
陸前高田市

■「基本計画」掲載の管理運営体制の段階的な組織化のイメージ



2. 検討経緯

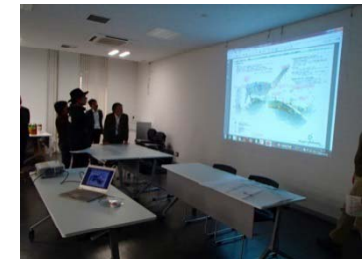


3. 第4回協働体制検討ワーキンググループにおける主なご意見

日時:平成28年4月26日(火)18:30~21:00

会場:陸前高田市コミュニティーホール 2階大会議室

出席者:広田幹事、五味副幹事、阿部委員、石川委員、岡本委員、菅野委員、熊谷委員、種坂委員、吉田和子委員、吉田裕委員、渡辺委員



○復興祈念公園の検討状況について

- ・市民は避難についての関心が高い。
- ・ワークショップで有意義な議論を進めるためにも、現段階の公園検討状況を市民に示すことが必要。

○公園の管理運営体制の検討状況について

- ・市民協働を推進するためには、公園管理者(行政)や指定管理者と、公園の管理運営に参加する市民団体等が対等に話し合える場が必要。
- ・大規模な公園なので、管理運営を議論する場も公園全体とエリア毎の2階層に分かれている方がイメージしやすい。また、エリアごとのリーダーが、公園全体の運営委員会に参加する形が良い。
- ・市民協働の先進事例である愛・地球博記念公園や中越メモリアル回廊等において、実際にどのような取り組みがなされているのか直接話を聞いてみたい。

○第3回市民協働ワークショップについて

- ・ワークショップ冒頭で公園全体のプランのほか、関心が高い避難計画の検討状況も説明する。
- ・テーマ別の議論では、現在検討中の公園のプランを提示し、公園の理解と具体の議論を促す。
- ・前回は平日夜、休日日中の2回開催したが、前回の参加状況を踏まえ、今回は平日夜開催とする。
- ・前回ワークショップと同じ4つのテーマで、前回の意見を踏まえて、「誰が」、「どこで」や主語を「自分たちで」という観点からより具体的な議論を行う。

4. 愛・地球博記念公園視察 結果概要

【実施期日】 平成28年7月14日(木)～15日(金)

【参加者】 協働体制検討WG委員:8名
広田幹事、五味副幹事、阿部委員、岡本委員、
菅野委員、種坂委員、村上委員、吉田和子委員

【概略行程】

1日目(7月14日)

11:30頃 愛・地球博記念公園到着・園内自由見学

13:00～ 公園概要説明

(対応者:(公財)愛知県都市整備協会、愛知県関係機関)

14:00～ 公園マネジメント会議(総会) 視察

2日目(7月15日)

9:30～ 愛・地球博記念公園内 “あいちサトラボ” 視察

(対応者:愛知県公園緑地課、(公財)愛知県都市整備
協会、あいちサトラボ里山開拓団役員等)

11:30～ 愛・地球博記念公園 園内自由見学

14:00～ 愛・地球博記念出発(帰途)



【愛・地球博記念公園】

面積:約150ha、開園:平成19年、年間来園者数:159万人(H26)



公園概要説明



公園マネジメント会議(総会) 視察



あいちサトラボ 視察



あいちサトラボ 視察

【視察後の感想】

- ・公園における市民協働について理解が深まった、身近に感じることができた、大いに参考になった。
- ・公園周辺の社会環境や参加団体数などから、そのまま祈念公園に適用できない部分もあった。
- ・高田の地域性を踏まえた仕組みづくりや、継続的な市民参加を促すことが必要。
- ・沿岸の他市町村の参加、震災を契機とした全国的なネットワークの活用を考えることが必要。
- ・市民が自由に参加しながら、つくりあげていく空間(余白)があることは重要。

5. 第5回協働体制検討ワーキンググループにおける主なご意見

日時:平成28年9月2日(金)18:30~21:00

会場:陸前高田市役所 4号棟 第6会議室

出席者:広田幹事、五味副幹事、阿部委員、岡本委員、菅野委員、熊谷委員、村上委員、吉田和子委員、渡辺委員



○「愛・地球博記念公園」視察(平成28年7月14~15日実施)を受けて

- ・参加者から、視察しての所感を発表(概要はP4掲載の通り)

○今後の展開((仮称)準備会への設立)に向けて

- ・最小限の団体で良いので、まずは(仮称)準備会を設立して議論を進めてはどうか。
- ・これまでの協働WGでの議論の蓄積や場の雰囲気を(仮称)準備会に活かすべき
 - (仮称)準備会は、協働WGを発展的に展開した組織としてはどうか。
 - 協働WGのように管理運営には参加しないが、市民などが広く自由に意見を交わす場も必要。
 - 参加の裾野を広げるためには、個人レベルでも参加できる、興味を促す場も必要。
 - 協働WGに管理運営の主体が参加し、(仮称)準備会設立後に現WGメンバーが退けばよい。
 - 管理運営以外のテーマ(逃げ地図づくり等)を議論できる場を残しておくことも必要。
- ・管理運営に関する総論(参加のルール等)と各論(テーマに応じた具体の協働のあり方等)を議論する場は別々に必要(階層的な議論の場が必要)。
- ・テーマごとに実行組織を設け、そこに現協働WGメンバーが幹事役として参加すれば良い。

※今後の展開のあり方については、9月28日開催の第6回WGで継続議論することとした。